

72
696

大和
巡
四
日
の
旅
行
全

大和 四日 旅行 (一名和州案内記)

緒言

南都 山外閑



奈良大和は神代の宗國にして 皇祖創業の偉跡今尙追尋すべきものあり降て奈良の朝に至りて
 其文物の盛なりしと想ひ見るべく奈良は美術の淵藪なり東洋の羅馬、希臘なりと稱せらるゝも
 の亦謂れなきに非らず且國中到る處大社古刹の勝境あらざるなく殊に芳山には南朝五十餘年の遺
 蹟を存す古を考へ今を徴せんとするの志ある人は必ずや一回來遊せざるべからざるの地なりと雖
 も近年までは交通の便宜きを得ざる所ありて輒もすれば旅客の足を容るゝに躊躇するの憾なき
 に非らざりしが今や大阪鐵道は奈良、高田の兩地に全通し往復三時間を費すのみ京都よりするも
 道路平坦にして車行四五時間に過ぎず恰も好し本年は春風晴蕩百卉競妍の時節を下し(四月一日
 より五十日間)奈良大佛殿内に於て關西二府十二縣聯合共進會を開設せらる是亦一覽すべき價值
 あるものなり吾輩大和國に住するもの此際東道主人となり汎く大方の諸君子が遊覽の手引を爲す
 は亦自然の義務なりと信じ茲に大略の案内記を作り題して大和巡り四日の旅行と云ふ若夫各社寺

の緣起寶物の品目等は皆實地に臨み問尋せらるゝの便あるを以て大抵之を略し此には只行路の順序を指導することを専らとせり讀者幸に之れを諒せよ

第一日

京都より奈良に來らんとする人は七條停車場前に至れば午前七時午後一時兩回定期發の乗合馬車なり五時間にして奈良に達すべし賃金は一人前三十錢の定めなり人力車にても五時間なれば十分あり其賃金は一輛六十錢を通常とす

大阪より來らん人は湊町より大阪鐵道の瀛車に乗るべし此瀛車は日に十一回の往復あり午前六時を一番とし一時半毎に發車す其賃金は下等三十五錢にして上中等之に準す其一番瀛車に乗れば午前七時三十分には早已に奈良に着すべし

奈良に着すれば兎も角旅舎(附録に詳なり以下各地皆同じ)を定め時刻なれば食事を終られ取敢ず大佛殿内の關西聯合府縣共進會を一覽あるべし陳列品の種類は繭、生糸、米、實綿、麻、葉烟草、水産物、織物、陶磁器、漆器、紙等(總點數大約四万品)にして參考品には大和全國古社寺諸名家の寶物什器及び農商務省、帝國博物館、聯合府縣の出品あり大佛殿まではいづれの旅舎よりするも其距離數

丁を出でず

共進會は大佛殿の中門を入り直行して仮橋を越へ本堂に登り右手の所にて切手(大人一錢小兒半額六歳未満は無料)を買ひ先づ第二陳列場(即ち東廻廊)を一覽すべし次に西側の參考品陳列場に移るの前芝生を散歩すれば奈良縣下郡山の名産たる錦魚の出品あり又休息すべき茶店の設あり參考品を見れば第二陳列場(今度新築せしもの)第三陳列場(即ち西廻廊)を巡覽するを順序とす細密に見んとすれば際限もなきことなれどもざつと一見せんには先づ半日にて事足るべし但し畜類を牽入れ手荷物を攜帶するは入場規則の許さざる所なれば豫め其心得なかるべからず

共進會の外大佛殿本堂の後戸には奈良博覽會社の古美術品陳列あり孰れも名ある珍寶奇品のみなり之れをも一覽せんとする人は共進會に入るの前先づ之を見了る方順序よし其觀覽切符は本堂内に入り右手の處にて別に買ふことゝ知るべし(入覽料大人一錢小兒五厘)此日尙ほ時間あれば大佛の大釣鐘、手向山神社、二月堂、三月堂の邊を遊覽して後ち歸途に就かるゝも便宜ならん三月堂中には殊に有名の古佛像多し四月中は内陣觀覽を許すと云ふ

第二日

早朝先づ官幣大社春日神社に至り次に若草山(俗に三笠山と云ふ)を遊覽あるべし春日神社は本社及び若宮あり朱巖形閑深林翳鬱の中に隱見し其壯觀謂はん方なく殊に鹿群の人に馴れて食を乞ふ狀旅客の目には珍らしからん若草山は一面の芝生にて樹木も巖石もなく旅狩り球投げ等婦人童幼の遊戯場に尤も適當せり右了りて奈良倶楽部の新古美術展覽會を一目するも可なり(入覽料は大人拾錢小兒半額五歳未満は無料)此倶楽部は米人「フェテロサ」氏の意匠に依りて新築したるものなれば其建築方等參者となるべき所あるべく又陳列品は大和全國は勿論京阪其他の古社寺諸名家及び帝國博物館に出品を乞ひたる書畫彫刻等の優等品多し彼是すれば早や正午になるべし午飯は大佛近傍に假設せる割烹店又は飲食店にて濟さるゝも亦一興ならん

此日尙ほ當地に一宿するの餘暇ある人は市中にては開化天皇、聖武天皇の御陵、興福寺、般若寺、極樂院、新藥師寺、福智院、十輪院等の古刹を探るべし進んで西郊一里許を出れば有名なる藥師寺、唐招提寺、西大寺、法華寺、海龍王寺、喜光寺等あり車にて駈け廻るも半日の仕事にはちとむつかしく宜しく取捨あるべし此寺々には大抵千年以上の建造物ありて古美術品も亦殊に多し

前途に心急ぐ人は午後奈良を發し轅を南に向け上街道筋を行くと五里五丁にして三輪驛あり此地には官幣大社大神々社あり社地は三輪山に倚り甚だ幽邃なり此に至る途中にも官幣大社石上神宮(往還より東に入ること十五丁)及び大和神社(沿道右手)あり尙ほ柳本は織田子爵の舊封地にして其上に崇神天皇の御陵あり陵の周圍に晚櫻多く花時には遊人齎集す

三輪驛より左折して行くと一里二十五丁初瀬川に達す此地には有名なる西國三十三所八番の札所長谷寺あり寺は泊瀬山上にありて堂宇輪奐宏壯を極め坊舎學寮棟を連ねて建並び麗なる山門より山頂の本堂に至るまで石壇數百間の上に瓦葺の長廊を架し其結構風景多く比類を見ざる所なり此寺にも寶物多く就中菅公眞筆の長谷寺緣起及び銅版の佛像を優等とす此地亦た櫻花の名所なり初夏の候に至なりば牡丹花多く園内に開く此夕は當所にて一宿すべし若し尙ほ時間あれば櫻井驛まで進み置く方都合よし

第三日

初瀬町を發し前路をとりて櫻井驛の東端に出で多武の峰に登らるべし初瀬より此所までは一里二十四丁にして此より五十丁は山坂なれども二人牽あれば車を通すべし山頂に別格官幣社談山神社あり即ち鎌足公を奉祀したる處にして祠宇の壯麗なること日光の廟と東西並ぶものと云ふべし此

の處にも櫻花甚だ多し古歌に所謂吉野初瀬の花の中宿との即ち此地なり午飯には少々早かるべけれど進んで吉野に行かんとする人は此所にて支度し少しく險路なれども多武の峯の裏坂を下り三軒家漣畑さんげんやを経て上市町に出るを最近とす此間二里二十五丁なれども脚弱の人は多武の峯にて駕籠の用意あるべし若し人力車にて行んとせば登山の前路を下りて再び櫻井町に出で八木山土佐山やぎまきとさまを経て壺阪街道つるさきを越る上市町に出ざるを得ず斯くすれば此間の里程は殆ど六里にして壺阪街道は近年の改修に係り登り三十丁許りの間は二人牽ならざれば困難なり土佐町は植村子爵の舊封地にして高取城の故趾山上にあり其峠には西國三十三所六番の札所なる壺阪寺つるさき一名南法華寺あり山上の巖石一面に五百羅漢を彫刻すこれを奥院おくのいんと云ふ遙かに路の左手に望むことを得べし若し吉野に行くことを欲せざる人は談山神社より前路をとりて櫻井町に歸り八木町に移り（此間五十丁）第四日の末項に記せる順序に依り直ちに畝傍山うねぼり其他の巡覽を了れば其日高田たかたに至り瀛車やうしやに乗りて大阪に歸ることを得べし

上市町かみいちまちにて吉野川を涉れば飯貝いひがひと云へる所にて吉野山の裏坂に入るべく此より坂路あれども一里足らずにて山上の吉野町に達すべし多武の峯より駕籠を雇ひ來りし人は吉野まで通し行くを可とす此夜は吉野泊りとし夕にても朝にても先づ後醍醐天皇の御陵を拜し如意輪寺、吉永神社、竹林院、金輪寺跡、藏王堂等の名所舊跡を巡覽あるべし

第四日

吉野山を登り表坂ひらき長峰ながみねと稱すを下れば沿道總て櫻花ならざるはなく所謂一目千本も亦此中にあり官幣中社吉野宮は途の左り手にて目下造營中に係る表坂は五十丁にして裏坂に比すれば稍平夷なり少しく我慢すれば登り下りとも二人牽の人力車を通すべし

南六田みなむいだと云へる所にて櫻の渡わた（即ち吉野川）を渡り北六田きたむいだにて車を雇ひ比曾ひそに至り復た前日の壺阪街道を越へ土佐とさ、見世みせを経て畝傍山に達する（此間四里半）を順路とすれども前路を再びするを好まず且平坦の道を擇はんとする人は下淵しもぶち、車阪くるまのさか、戸毛とむげを経て畝傍山に至る（此間五里半）も可なり若し健脚の人なれば下淵の手前梅垣本うめがきと云へる處より蘆原峠あしはらを踰へ土佐町に出づるを最も捷徑ちやうけいとすれども峠は頗る險阻なりと知るべし

又南六田より人力車にて吉野川の南岸を西下すること一里十四丁の所に下市しもいちと云へる町あり此地には院本などに所謂鮮屋せんや々々の舊跡あり其家の後園は當時の趣を現存し花木泉石の觀あり之を

一見せんとする人は此路をとらるゝも下市町にて吉野川を涉れば即ち下淵の地なるを以て川の北岸を西下したると道程に差異あることなし

畝傍山の東南には近年新營せられたる官幣大社かしはら榎原神宮あり其社殿は京都皇宮の内侍所、新嘉殿を移されたるものなり此邊にて若し空腹になれば神宮の鳥居前に近頃新設せし飲食店あれども今少しく忍びて今井町いまのまちに至れば相應の旅舎あり畝傍山の下を北へ直行すれば即ち神武天皇の御陵あり更に一二丁を距て、路の右傍に綏靖天皇の御陵あり此より四五丁にて今井町に入る町の東端より左折して西に行くこと四十丁餘りにて高田町に達するを得尙は畝傍山の裏手には安寧天皇、懿德天皇の御陵あり就て拜せらるゝも多く時間を費さす其他土佐山の最寄には西國三十三所七番の札所たる岡寺おかでら(一名龍蓋寺)あり榎原神宮の東北には久米寺くめでらあり天の香久山あまのかくやま、耳成山みみなりやまは畝傍山と相對峙す(之を三山と稱す)巡覽せらるれば更に妙ならん

高田町には大阪鐵道の停車場あり此處より瀛車に乗れば一時三十分間にて大阪湊町に達す尙は法隆寺を一見せんとする人は王寺わうじにて奈良行の瀛車に乗り更へ法隆寺停車場にて下車せば(高田より法隆寺まで瀛車三十分余)八丁許りにて法隆寺に達すべし此寺は推古天皇の御宇に創建せられ

ある七堂伽藍今尙現存し儼然一大城郭の如く古代の佛像及び寶物を藏すること夥しく世間絶て其比を見ざる所なり好古の心ある人は必ず一覽せざるべからず法隆寺を巡覽し終りても夜瀛車に乗らば其夜大阪に歸ることを得べし

若し京都に歸らんとする人は法隆寺より人力車を雇ひ第二日の部に記載せる藥師寺、唐招提寺、其他の諸古刹を此日に於て巡覽するも亦便利なり法隆寺より奈良までは直行四里なれども諸寺を巡れば三十丁余を迂回するものと知るべし然すれば奈良に達するは夜に入るべきを以て法隆寺又は郡山こほりやま(柳澤伯爵の舊封地)にて一宿し緩々此邊を巡覽し翌日奈良を経て歸京せらるゝ方都合ならん因に記す上記述せし外尙は官幣大社には廣瀨廣瀨郡廣瀨(廣瀨郡)竜田不詳郡丹生川上吉野郡の三社あり古刹には正曆寺添上郡善提山善提山圓成寺全郡松尾寺添下郡金剛山寺全郡朝護國孫子寺不詳郡當麻寺當麻郡菩提寺不詳郡及不詳郡寶山寺不詳郡あり又梅花の名所には天下第一たる月の瀬あり紅葉には竜田川ありと雖も遍く巡覽せられんには更に兩三日を要すべくそは諸君の隨意に任せんとす

附 録

◎旅舎一班

須水樓	若草山麓	三景樓	一名あしろ
武藏野	今小路	うを屋	池の町
對山樓	元林院	かま屋	今御門
明秀館	一名いんげんや	含翠樓	全
金波樓	附割烹店	小刀屋	一名大黒屋
	松		池の町
	利		樽井
	南城戸町に在り		

三輪竹田屋 紀伊國屋
 初瀬井子屋 吉野屋
 多武峰花の中宿(葛城事) 紅葉屋
 櫻井たば市一名皆花樓
 八木辻 嘉
 土佐神 佐下土佐町

上市魚 万 かしき
 吉野竹林院 喜藏院
 今井油 富 辰角己 屋安
 高田辻 甚
 法隆寺か せ 九 大黒屋
 郡山平 芳屋 はなうち屋 佐屋

◎人力車賃錢

奈良三輪間 午前拾八錢 午後廿五錢 三輪初瀬間 九錢
 初瀬櫻井間 九錢 櫻井多武峯間 (二人)片道四拾錢 往返六拾錢
 櫻井土佐間 拾五錢 土佐上市間 (二人)五拾錢
 上市戸毛間 廿五錢 戸毛今井間 拾五錢
 今井高田間 五錢 法隆寺郡山間 八錢
 郡山奈良間 (法師寺、唐招提寺、西大寺、法華寺、光寺、海龍王寺) 貳拾錢

◎ 駕籠賃錢

多武峯吉野間(越知)八拾錢 吉野六田間 貳拾錢乃至三拾錢

以上賃錢は孰れも通常の價額を示したるものなり雨天夜分等は多少の増加ありと知るべし

20-39

明治廿五年四月三日印刷
明治廿五年四月四日出版

非賣品

著者兼
發行者

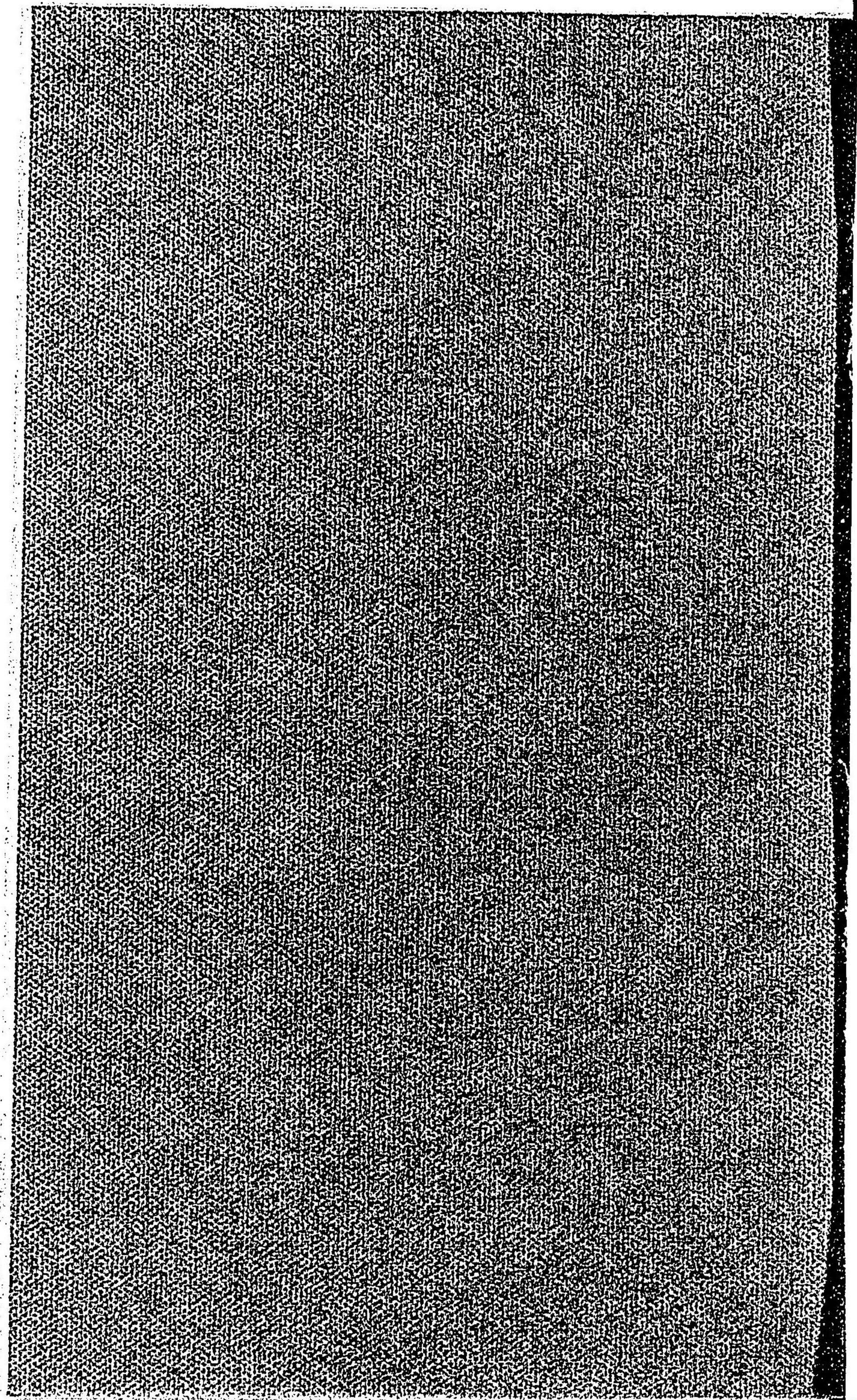
赤堀自助

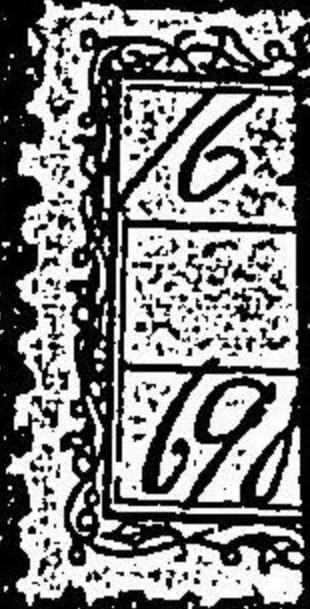
奈良縣添上郡奈良町大字上三條番外二番屋敷町留
和歌山縣平民

印刷者

吉村庄八

同縣同郡同所大字東向中拾番屋敷





025706-000-4

特14-207

大和巡り四日の旅行 一名, 和州案内記

赤堀 自助/著

M25

ADC-3240

